

**NTT
docomo**

株式会社NTTドコモ

株式会社NTTドコモ CSR部

〒100-6150

東京都千代田区永田町2丁目11番1号 山王パークタワー

TEL : 03-5156-1111

E-mail : csr@nttdocomo.com

URL : <https://www.nttdocomo.co.jp/corporate/csr/>

掲載されている会社名、商品名、サービス名は(株)NTTドコモあるいは各社の商標または登録商標です。
キャプチャ画像はすべてイメージです。

本冊子から許可なく転記、複写することを固く禁じます。



色覚の個人差を問わず、見やすい配色・表示となるよう配慮し、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構から認証を取得しています。

UD FONT
by MORISAWA

見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

S1500079

Printed in Japan

いつか、あたりまえになることを。

**NTT
docomo**



ドコモが描く、少し先の未来。笑顔を届けるため、私たちにできること。

NTTドコモグループ
CSRコミュニケーションブック2015

2020年に向けて

ドコモの思いと取り組み

より安心な社会、よりよい明日に貢献する事業とは？

私たちは、変化する未来を見据え、日々、挑戦しています。

たとえば2020年の日本。

そこは、どのような社会になっているでしょう？

少子高齢化が進み、人々の生活スタイルも変わってゆくと思います。

一方、東京オリンピック、パラリンピックが開催され、

世界のさまざまな国から多くの人が訪れていることでしょう。

そのとき、ドコモが社会のためにできることは何か？

私たちの思いは広がり続け、思いはさまざまな「形」となりつつあります。

このコミュニケーションブックでは、ドコモが予想する2020年の日常を

切り口に、より安心な社会、よりよい明日に貢献するため、

ドコモが行っている取り組みの一例をご紹介します。

世界に、あなたに、多くの笑顔を届けるため



思い 1
人々の健康と安全を支える



思い 2
より豊かなコミュニケーションを
創出する



思い 3
誰もが安心・安全に暮らせる社会を
実現する



思い 4
豊かな地球の未来に貢献する



思い 5
災害に備え、日常を育む

社会を支え、未来を創る。ドコモのCSR

私たちならではの貢献をめざし、ドコモのCSRは、
「新たな社会価値の協創」と、「お客様に信頼される企業体質の確立」を、二つの柱に据えています。

私たちは、事業を通じ、さまざまな社会的課題を解決します

ドコモは、皆さまのよりよい未来に向け、社会の変化を見据えた製品やサービスの開発に挑戦しています。

新たな社会価値の協創 たとえば

高齢化社会の加速、健康管理問題
に貢献する、ヘルスケアサービスや
医療とモバイルの連携



子どもの日常生活を見守り、安心・
安全な社会の実現に寄与する、見守
りサービスの充実や子どもへの教育



社会の国際化に即した、機械翻訳の
進化やボーダレスな通話・通信サー
ビスの実現



低炭素で循環型な社会の実現を
リードする、環境に優しい通信設備
の実現やリサイクルの推進



私たちは、社会インフラを担う企業としての社会的責任を遂行します

ドコモは、お客様、ひいては社会の皆さまに信頼され続けるため、
法令順守は勿論、公正で倫理的な事業活動をグループ全体で徹底しています。



豊かな未来に貢献するため
ドコモは、社会に新たな価値を
さまざまなパートナーと一緒に
協創していきます。

ドコモにとってのCSRとは何でしょうか？ 私は、それを一言で表現するならば、「愛される会社でありたい」ということだと考えています。そのためには、社会にとっての「お役立ち」でなければ、我々の仕事は意味がありません。では、私たちがどのようなのであれば、社会に対しお役に立てるのでしょうか？ グループを挙げ、社会インフラ企業として人と人をつなぐ「使命」と、より便利で充実した豊かな社会を実現する「夢」とを胸に抱き、社会の発展・進化に貢献し続けることだといえます。一人ひとりが、これら「使命」と「夢」に全力で取り組むことが、ドコモの社会に対する価値創造であり、同時に、ドコモが果たすべき社会的責任です。低炭素な世界の実現、安心・安全な社会の推進、医療・福祉の充実など、世界は可能性と同時に課題も抱えています。未来を見据えた私たちの挑戦を、この冊子を通じ実感いただければ幸いです。

2015年5月、ドコモは、2014年に掲げた中期目標の達成に向け、パートナーの皆さまとともに新たな価値を「協創」する「+d」などの取り組みを開始しました。「協創」から新たなサービスやビジネスを創出し、豊かな社会の実現やさまざまな社会的課題の解決に貢献する「付加価値協創企業」をめざします。この実現には、ステークホルダーの皆さまのご理解・ご支援が大きな役割を担います。皆さまの変わらぬご愛顧をお願い申し上げます。

株式会社NTTドコモ
代表取締役社長

加藤 董

Scene 01

6:00 AM

いつものランウェイ 一日のはじまりのランは、健康状態のチェックのとき

快晴のなか、私の新たな一日がはじまる。
オリンピックヤーの東京マラソンをターゲットにはじめた朝のランも、はや1年目。一日のリズムづくりにも役に立っているが、何より健康管理がこれほど楽しくなるとは思わなかった。
身に着けて走るだけで、クラウドで健康管理ができる。ジョギングが日課だった祖父が聞いたら、きっと驚くだろう。

To 2020 いつでも、意識せず健康管理ができる未来へ

思い 1



人々の健康と安全を支える

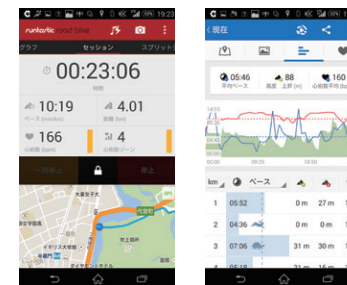
d i n FOCUS モバイルとクラウドを連携した、新しい健康管理を提案していきます

ウェアラブル機器を活用したヘルスケア

誰もが健康な日々を送れる未来に向け、健康状態を計測・発信するウェアラブル機器の活用がはじまっています。ドコモは、クラウド技術との融合により、医師との連携も視野に入れた、高精度なヘルスケア端末を開発しています。

トレーニング支援サービス 「Runtastic for docomo」

「Runtastic for docomo」は、2014年12月に登場した、ランニングやサイクリングといったトレーニング時に計測した各種データを記録・管理し、お客様の健康管理に役立てるサービスです。スマートフォンなど同サービスに対応したデバイスを身に着けてトレーニングを行うことで、GPS位置情報や運動時間、消費カロリー、移動経路、心拍数などの各種トレーニングデータを計測します。計測データはクラウド上で管理され、専用アプリで気軽に分析ができます。またWebからも閲覧できるためユーザー間などのコミュニケーションにも活用できます。



心拍数、加速度などを送信する
小型トランスミッター



専用アプリで楽しく確認できる
各種トレーニングデータ





健やかで安全な日々を送るために

先進国、とりわけ日本では、人口構造の高齢化が進んでいます。この結果、お年寄りが安心して暮らせる社会の仕組みづくりと、きめ細かい健康管理を可能とする生活機器の開発に、期待が高まっています。



社会の変化

高齢化社会の加速と、健康問題

総人口に占める、65歳以上の比率



1960年

5.7%



2060年以降

40%超に

出典：平成26年版 高齢社会白書（内閣府）よりNTTドコモ作成

ドコモの取り組み

お年寄りが安心して暮らせる社会、きめ細かい医療サービスを楽しむことができる社会を実現するため、ドコモは、イノベーションを続けています。この結果、モバイル端末を活用した、ドコモならではの画期的なサービスが、日々、生まれています。

「もしものとき」、初動対応に貢献する救命・医療補助アプリ「MySOS」

救命活動は一刻を争います。ドコモは、普段から携えているスマートフォンが、救急車が到着するまでの間の、サポートツールになると考えています。「MySOS」は、このような考えから、東京慈恵会医科大学とドコモが共同企画した、いざというときのための救援依頼や、必要な医療情報をスマートフォンで持ち歩くことができる救命・医療補助アプリです。

具体的には支援可能者へSOSを求めたり、AED・医療施設などの検索ができるほか、「マイカルテ」に通院情報や連絡先を登録しておくことで、医療関係者への情報伝達やご家族への緊急連絡をサポートします。また、応急手当の流れや、症状から対応の目安が確認できる処置・救急ガイドも備えており、救護者にも有用です。



救援依頼機能 AED・医療施設検索



医用画像を共有
チャットでコミュニケーション

医用画像の共有とチャットができる医療関係者間コミュニケーションアプリ「Join」

医療の世界の大きな課題の一つとして、慢性的な医師不足が挙げられます。ドコモはアルム社とともに、医療関係者間の迅速なコミュニケーションをサポートするアプリ「Join」の提供をはじめました。CTやMRIなどの医用画像やメッセージを管理者が定めたメンバー間で、病院内外問わずセキュアに共有することが可能です。これにより、病院内に専門医がいなくても、スムーズな治療・診断へのアドバイスを受けることや、異なる病院間での連携医療も実現できるようになりました。

同サービスは2015年3月末時点で国内42施設、海外6施設に導入され、医師の負担を軽減させるだけでなく、医療の質の向上に貢献しています。



海外スタッフとのランチ
言語の壁を感じないひとりで、
チームワークを強める

国際都市として賑わいを見せる2020年の東京。今日もランチに多国籍な同僚たちが集う。さまざまな国の言葉を自動で翻訳してくれるタブレットは、コミュニケーションの強い味方だ。ビジネスのグローバル化は日々進む。しかし、時代が変わっても、ビジネスの基本は、人と人のつながり。同僚との心弾むひとりを先進のITが支えてくれる。

Scene 02

11:30 AM

思い 2



より豊かなコミュニケーションを創出する

d in FOCUS 機械翻訳技術を取入れた、実用的で手軽なサービスを開発しています

多言語コミュニケーション支援サービス

人の移動や日々の交流は国際化を加速しています。ドコモは、音声や文字情報の機械翻訳に着目。将来的にはすべての人が言葉の壁を意識せずコミュニケーションできるような自動翻訳端末・サービスの開発をめざしています。

■ 端末が自動で翻訳する 「はなして翻訳」

「はなして翻訳（海外向けサービス名“JSpeak”）」は、通話や対面での会話の際、スマートフォンやタブレットなどの端末を通じて利用できる、リアルタイムの音声翻訳サービスです。2014年12月にはキャリアフリー対応となり、ドコモユーザー以外の方にもご利用いただけるようになりました。

同サービスは英語や中国語など10か国語に対応し、海外旅行中の日本人や、訪日外国人、海外滞在の邦人の方が安心して会話を楽しむことを可能としています。また、旅行や日常会話でよく使う約1,900の会話集や、繰り返し使う文章をお気に入り登録する機能を備えるなど、使い勝手を追求しています。





グローバル化する日本社会。コミュニケーションツールも進化が必要

2020年に控えている東京オリンピック、ビジネスのボーダレス化、ソーシャルメディアの普及などを受け、日本でも「日常生活の国際化」が進んでいます。モバイル端末にも、グローバルなコミュニケーションに役立つ機能が期待されています。



社会の変化

着々と進む、日本社会の国際化

入国する外国人数の推移



観光庁目標
来日外国人旅行者

2020年
2,000万人

出典：入国管理局統計（法務省）よりNTTドコモ作成



ドコモの 取組み

日本人の方にも、海外の方にも、ともに便利な端末・サービスを開発・提供することが重要です。この実現に向け、ドコモでは、内外の幅広いビジネスパートナーと共同しつつ、多様な取組みを進めています。

✦機械翻訳事業の強化に向けた「みらい翻訳」の設立

「みらい翻訳」はドコモが2020年を見据えて2014年に設立した機械翻訳事業会社です。ショッピングや観光、ビジネス会場、学会など、国際的なコミュニケーションの機会は広がり、「機械翻訳ならではの」活躍が期待されるシーンが増えていくとドコモは考えています。「みらい翻訳」では、ドコモが「はなして翻訳」などで培った精度の高い機械翻訳技術に加え、音声認識ソフトや翻訳ソフトに強みを持つパートナー企業群のノウハウを取入れることで、より自然な機械翻訳の実現と、そのサービスを多彩な場所で提供できる仕組みづくりに取り組んでいます。



✦グローバルな高速通信サービスの充実

海外から日本へ、日本から海外へと、人のボーダレスな往来が加速するなか、モバイル通信サービスも、よりグローバルな利便性を高める必要があります。特に、高品質な音声通話とデータ通信を可能とする国際ローミングサービスの実現は、お客様のニーズが高い課題です。

ドコモでは、国内で展開している最新の音声通話および映像通信サービス「VoLTE」による国際ローミングをめざし、実証実験を続けています。2015年2月には、韓国KT Corporation、および米国Verizon Wirelessと共同し、日本・米国・韓国間での「VoLTE」による国際ローミングの実証実験に成功しました。日本企業初となる今回の成果をもとに、2015年内に、同ローミングサービスの提供開始をめざします。

VoLTE®

Scene 03

15:00 PM

小学校の帰り道
お子様の何気ない日常を、常に見守る

今日は金曜日。週末に胸を躍らせた子どもたちが、足取りも軽く家路につく頃だろう。このような微笑ましい日常が続くよう、願わずにいられないのが親心。日々忙しい私たちに代わり、端末が子どもたちに目配りしている。常につながっている安心感は、子どもも私も笑顔にしてくれる。孫とのひと時を楽しみにしている母にも、端末をプレゼントしよう。

To 2020 子どもや高齢者が、笑顔でいられる未来へ

思い 3



誰もが安心・安全に暮らせる社会を実現する

d in FOCUS 従来のケータイの枠を超えた、多彩な端末を形にしていきます

お子様やお年寄りを見守る端末

安全で安心な日常生活を、お子様やお年寄りにご提供するため、モバイル端末にできると、ドコモは考えます。そのため、使いやすい端末は勿論、きめ細かい見守りを提供する端末づくり・サービス開発に積極的に取り組んでいます。

時計型のキッズ端末「ドコッチ」

「ドコッチ」は、2015年4月より提供を開始した、お子様向けの端末です。その特徴は、ご家族のパソコンやスマートフォンと連動する「ドコッチサービス」を通じた、お子様の見守り機能にあります。GPSによる位置情報サービスに対応し、加速度計や温度計などと連動したお子様の活動状態の感知、緊急時の緊急メッセージ発信など、充実した機能が搭載されています。またご家族など登録された方とのショートメッセージの交換も可能です。

同サービスを通じ、ドコモは、お子様の健やかな成長や自立をサポートしつつ、ご家族の安心にも寄与していきたいと考えています。



多彩な機能を搭載した、「ドコッチ」



すべての人がITの恩恵を享受できる、快適な社会にむけて

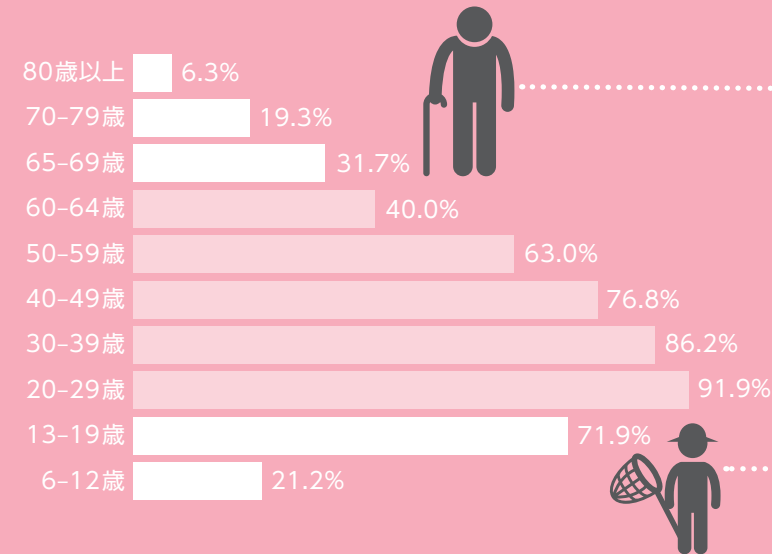
あらゆる機器がネットでつながるIT社会が、世代を超え人々の生活に浸透しつつあります。
多彩で便利な機能を持つモバイル端末には、
新たな生活インフラとしての期待が高まり続けています。



社会の変化

お子様、お年寄りでも着実に進む「モバイル端末の生活インフラ化」の動き

年齢層別 モバイルインターネットの利用状況



…… 着実に浸透



ドコモの 取組み

すべての人が、快適に、デジタル社会の恩恵を享受できる。そのような社会づくりに貢献することは、ITインフラを担うドコモの責務です。ドコモでは、お子様やお年寄りの利便性を考慮したモバイル端末の開発や、利用の啓発活動など、多彩な取組みを進めています。

❖ 高齢者に優しい「らくらくホン・らくらくスマートフォンシリーズ」と「つながりほっとサポート」の提供

ドコモは、かねてより、シニア向け携帯電話のラインナップを、積極的に展開。「らくらくホン」「らくらくスマートフォン」として提供し、多彩で充実したシニアライフを応援しています。
また、高齢者の見守りの観点から「つながりほっとサポート」サービスを用意しています。同サービスは、あらかじめ指定したご家族などの「つながりメンバー」へケータイやスマートフォンの利用状況（歩数計の歩数や電池残量など）をお伝えする機能を提供しています。
「日常生活で常に身に着け、持ち歩く機器」というモバイル端末の特徴を活かし、ドコモはこれからも、高齢者の安心に寄与するサービスを形にしていきます。

※写真はスマートフォン版「つながりほっとサポート」のイメージ図です。※スマートフォン版とiモード版ではサービス内容が一部異なります。



❖ 正しい知識と、安全な利用を啓発する「スマホ・ケータイ安全教室」

ドコモは、スマートフォンやケータイを正しく理解いただくと同時に、利用に際しての危険やトラブルを未然に防ぐ方法を啓発する「スマホ・ケータイ安全教室」を全国で実施しています。同教室では、小学生（5・6年）向け、中高生向け、保護者・教員向け、シニア向け、特別支援学校向けなど、対象者をきめ細かく区切りコンテンツを作成。TPOに沿った啓発活動を展開しています。

2004年7月よりスタートした同教室は、10年間で約48,000回、約704万人（2015年3月末現在）の方に受講いただきました。2014年度は約7,000回、約103万人の方が参加され、関心の高さを実感しています。また、2014年度はドコモUSAの協力のもと、ニューヨーク日本人学校において教室を開催しました。



Scene 04

18:00 PM

To 2020 自然と調和した、サステナブルな未来へ

仕事帰りのいつもの道
低炭素社会の明日を見つめる、最先端の基地局

夕飯の買物をすませ、家路を急ぐ。この角をまがると家族が待つ自宅。子どもの誕生とともにこの街に引っ越して5年。いつもの通勤路、いつもの風景だが、1年前から太陽光パネルが設置されている。ここは基地局だったはずだ。通信施設にも「グリーン化」が着々と進んでいる。低炭素でエコな社会づくりは、子どもたちに未来を残す大事な取組みだ。

思い 4



豊かな地球の未来に貢献する

d in FOCUS 低炭素社会を率先する、先進の通信設備を建設しています

基地局のグリーン化の推進

CO₂排出量を抑えた低炭素な社会を実現するため、企業には、事業設備の環境性能を向上する責任があります。ドコモは、各地に展開する通信設備に着目。なかでも基地局のグリーン化を業界に先駆けて推進しています。

先進の発電・蓄電技術が可能とする、次世代の「グリーン基地局」

無線基地局にソーラーパネルを設置し、その発電電力を活用する「グリーン基地局」は、日々、進化を続けています。最新の「ダブルパワー制御型」のグリーン基地局では、昼間のソーラーパネルの余剰電力と深夜以降の「夜間電力」をリチウムイオン蓄電池に貯め、これら二つの環境負荷の低い電力で、ソーラーパネルの発電が少なくなる夕方から深夜までの設備運用を賄うことをめざしています。

2014年の実証実験では、ソーラーパネルの電力と夜間電力で、運用電力の95%以上を賄うことが可能となり、目標へと大きく近づきました。



環境負荷の低いソーラーパネルの電力と夜間電力で、運用可能な「グリーン基地局」



青い地球を、次世代に残すため

世界的に異常気象や気温の上昇傾向が続き、その原因として地球温暖化問題がクローズアップされています。

全世界一丸となった、省資源・低炭素な社会づくりが求められています。



社会の変化

悪化を続ける、地球温暖化問題

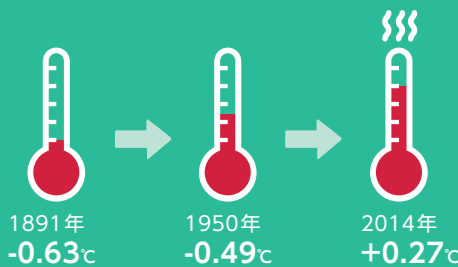
世界のCO₂濃度と、気温の推移

CO₂濃度の推移 全球での年平均値



1984年 → 2013年
51.7 ppm上昇

気温の推移 1981年～2010年の30年平均値に対する偏差



1891年 → 2014年
0.9℃上昇

出典: 気象庁、および温室効果ガス世界資料センター開示データよりNTTドコモ作成



ドコモの取り組み

温暖化問題の改善や生物多様性の保全などを通じ、次の世代に豊かな地球を受け継ぐことは、今を生きる私たちの責任です。ドコモでは、自社のエコは勿論、お客様のエコにつながる施策にも率先して取り組み、低炭素社会に貢献していきます。

貴重な資源を有効活用する、ケータイリサイクル

使用済みになった携帯電話を適切にリサイクルすることは、資源の有効活用のみでなく低炭素な循環型社会をつくるためにも重要な課題です。ドコモは、通信事業者として、唯一、環境省より広域認定制度の認定を受け、全国約2,400店のドコモショップで使用済み携帯電話の回収を行っています。2014年度は約360万台*、累計で約9,143万台を回収しました。法人のお客様にもご利用が広まっており、2014年度は302社にご利用いただきました。

* 2014年度はリユースを目的とした回収台数を含みます。



モバイル・リサイクル・ネットワーク
携帯電話・PHSのリサイクルにご協力を。

エコな事業を徹底する「紙のムダ『0』」への挑戦

通信事業者は、毎年、カタログや紙袋、取扱説明書といったさまざまな販促ツールを作成しています。それらを極力デジタル化し紙の消費量を削減することは、低炭素・循環型社会に根差した事業への重要な一歩であるとしてドコモは考えています。

「NTTドコモグループ 地球環境対策」では、主な目標の一つに「販促ツールの作成重量を2016年度までに40%以上削減(2012年度実績比)」を掲げ、販促ツールのデジタル化を推進。紙のムダ「0」をめざしています。2014年度は店頭広告物の電子化や在庫運用管理システムによるカタログ・パンフレットなどの廃棄率管理などに取り組み、2012年度比で作成重量を約50%削減しました。



To 2020

世界に誇れるレジリエントなインフラを整えた未来へ

残業中のオフィス
夜なお眠らぬ街を、確かに支える

今日もオフィス街は眠らない。部下たちが海外事務所とオンラインで打ち合わせをしている声が聞こえるなか、ふと、思った。「もし、今、大地震が来たら、どうなるだろう?」しかし、東京オリンピックにあわせ進んだ社会インフラの刷新と強化は、確実に成果をあげている。企業の緊急協力体制も整備が進んだ。ふと表情が和らぐのがわかる。

Scene 05

24:00 PM

思い 5



災害に備え、日常を育む

d in FOCUS 「もしも」に揺るがないインフラ、助け合う仕組みを、つくり続けます。

社会を支える、きめ細かい災害対策

「レジリエントなインフラを2020年までに整備する。」官民連携で取組みが進んでいます。ドコモは、通信事業者として盤石のサービス継続体制を構築しつつ、緊急時に社会支援を提供する仕組みづくりにも力を入れています。

■ 帰宅困難者への積極的な自社ビル開放

大規模災害発生時には、交通機関の混乱などにより帰宅困難者が多く発生すると予想されています。東京都の試算(2012年)では、首都直下型地震が発生した場合、その数は都内で約517万人と予想されています。

ドコモは、これら帰宅困難者に対して、一時避難場所として自社ビルを開放する体制を整備しました。その数は2015年3月末時点で、全国34か所になります。開放する自社ビルでは、休憩スペース、携帯電話充電サービスをはじめ、テレビ・ラジオなどによる災害情報、飲料水、非常食、トイレ設備などの提供を実施します。



開放される予定の、品川ビルと代々木ビル



24時間365日、コミュニケーションをつなぎ続ける

モバイル通信は、人々の日常のコミュニケーションの手段として、重要な社会インフラとなっています。その最大の使命は、24時間365日、お客様の通信をつなぎ続けることといえます。非常時にこそ、ライフラインとしてその使命を果たすことが、社会から期待されています。

通信インフラを支える、ドコモの災害対策3原則

..... **原則1：システムとしての信頼性向上**
24時間365日、高い通信品質を維持します

..... **原則2：重要通信の確保**
大切なメッセージを届けることに万全を期します

..... **原則3：通信サービスの早期復旧**
万一の被災時も、早期復旧に全力を尽くします



ドコモの取り組み

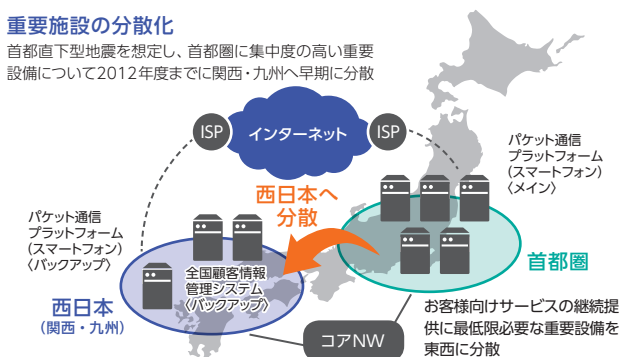
ドコモでは、災害対策3原則をグループ全員に徹底し、平時の通信品質の維持・向上は勿論、非常時にも重要通信を確保するための仕組みを多層的に準備しています。また、万一通信設備が被害を受けた場合も迅速な復旧を可能とする体制づくりに、日々つとめています。

❖ 災害対策の例：通信設備の二重化、分散設置

ネットワークの多ルート化を行っていても、広域にわたる災害の際は、その多くが被害を受けるリスクがあります。これに備えるため、通信設備の二重化、分散設置に取り組んでいます。たとえば、首都圏での災害発生時にもサービスを継続提供するため、首都圏のみでなく関西・九州などへと、重要施設の分散設置を進めています。

重要施設の分散化

首都直下型地震を想定し、首都圏に集中度の高い重要設備について2012年度までに関西・九州へ早期に分散



社員ボランティア活動



❖ 東北復興に向けた、継続的な支援

東日本大震災の被災地には、長期的な支援が必要です。ドコモは、息の長く、現地に寄り添った支援を提供するために、グループ社員によるボランティア活動を2012年4月より継続実施しています。

全国のドコモグループ社員より参加者を募り、復興に向けたお手伝いを実施しています。これまでに延べ約1,000名の社員がボランティア活動に参加しました。

もっとドコモを知りたい方へ

製品・サービスの紹介

当冊子でご紹介したものをはじめ、ドコモの最新の製品・サービスを動画でご紹介しています。

You Tube ドコモ公式チャンネル

<https://www.youtube.com/user/docomoOfficial>

【紹介されているサービスの例】
「Runtastic for docomo」「ドコッチ」「つながりもっとサポート」



CSRの取組みの詳細

最新のトピックスや、さまざまな取組みの詳細など、ドコモのCSRに関する情報をご紹介します。

CSRサイト

<https://www.nttdocomo.co.jp/corporate/csr/>



コーポレートデータ

ドコモのCSRに対する社外からの評価

CSR企業ランキング2015
(東洋経済新報社)

総合2位

人材活用、環境、企業統治、社会性の4つの観点と財政面から企業を評価するランキング。ドコモは非製造業としてトップとなる総合2位に選定されました。

NICES
(日本経済新聞社)

総合3位

業績だけでなく、消費者の認知度や従業員の働きやすさなど、幅広い視点で企業を評価するランキング。ドコモは2014年度3位に選定されました。

会社概要

社名	株式会社NTTドコモ	主な事業内容	当社グループの主要な事業内容は次のとおりです。
所在地	〒100-6150 東京都千代田区永田町2丁目11番1号 山王パークタワー	●通信事業	携帯電話サービス(LTE(Xi))サービス、「FOMA」サービス、光ブロードバンドサービス、衛星電話サービス、国際サービスおよび各サービスの端末機器販売など
資本金	9,496億7,950万円 (2015年3月31日現在)	●スマートライフ事業	動画配信サービス、音楽配信サービス、電子書籍サービスなどの「dマーケット」を通じたサービス、金融・決済サービス、ショッピングサービスおよび生活関連サービスなど
従業員数(連結)	25,680名 (2015年3月31日現在)	●その他の事業	ケータイ補償サービス、システムの開発、販売および保守受託など